

関西経済の現状について

< 要 旨 >

○ 関西経済の現状

関西経済は、比較的高い水準での一進一退を続けてきたものの、海外景気の加速により、再び拡大する兆しが出てきている。生産は、IT 関連業種の調整が一巡したこともあり、足元ではプラス幅が拡大している。輸出も、伸び率が鈍化していたアジア向けが、足元で大幅プラスとなった。個人消費は、総じて低調に推移しているものの、一部に明るさが見られる。雇用は、緩やかながらも改善が続いている。設備投資は、業種・企業規模により温度差が見られるものの、底堅い推移が続いている。先行きについては、海外景気の動向次第であるが、緩やかに回復していく見込みである。

○ 関西の主要経済指標の動向

鉱工業生産は、IT 関連業種の在庫調整が進展したことに加え、アジア向け輸出も大幅に増加したこともあり、足元ではプラス幅が拡大した。海外景気の動向次第であるが、緩やかに増加していく見込みである。

設備投資は、中小企業では依然として前年を下回る計画になっているなど、温度差が見られるものの、全体としては前年を大幅に上回る計画になっており、増勢に期待が持てる。

個人消費は、全体では低調に推移しているものの、一部に明るい動きがある。

住宅投資は、分譲マンションを中心に底堅い推移が続いている。

公共投資は、大型工事の着工があったため、一時的に増加している。

雇用環境は、緩やかながら改善の動きが続いている。

輸出は、05 年上期中は伸び率が鈍化していたものの、足元 8 月は大幅に増加している。



お問合せ先 調査部（大阪）鶴岡 武

E-mail: tsuruoka@ufji.co.jp

1. 企業部門

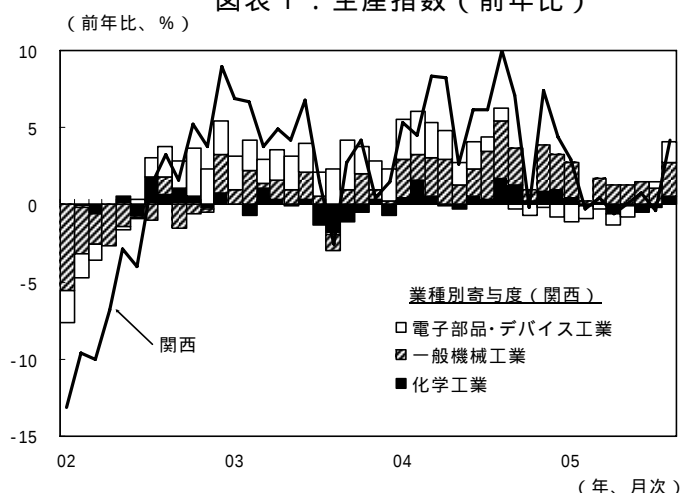
(1) 生産動向

関西の鉱工業生産指数は、05年8月が前年比+4.2%とプラス幅が拡大した。業種別にみると、一般機械が大きく押し上げており、電子部品・デバイス工業も調整圧力が一巡したことでプラス基調に転じている（図表1、3）。

関西の在庫指数をみると、05年8月は前年比+5.0%と、全国（+4.2%）を上回る伸びとなっている。季節調整済指数でみた在庫水準も高まっている（図表2）。

全国生産は、05年8月が前年比+1.5%と2ヶ月ぶりにプラスに転じている。生産予測指数も、9月が同+3.9%、10月が同+4.6%と、プラスの推移が見込まれている。海外景気の加速により生産にも回復の兆しが出てきている（図表3）。

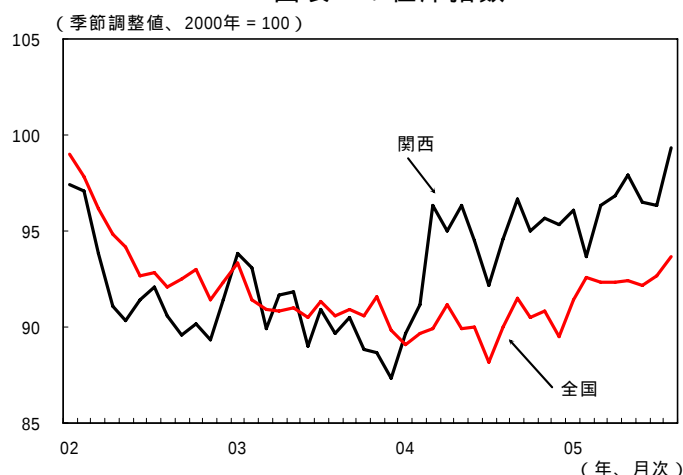
図表1. 生産指数（前年比）



（注）関西は福井県を含む2府5県。

（出所）経済産業省「経済産業統計」、近畿経済産業局「鉱工業指数」

図表2. 在庫指数



（注）関西は福井県を含む2府5県。

（出所）経済産業省「経済産業統計」、近畿経済産業局「鉱工業指数」

図表3. 鉱工業生産指数・在庫指数推移（前年比）

	構成比（%） （ ）内は全国	03年度	04年度	四半期			月次							
				04/10-12	05/1-3	4-6	05/4	5	6	7	8			
				04/10-12	05/1-3	4-6	05/4	5	6	7	8			
関西計		3.5	4.4	3.8	0.9	0.1	-0.6	0.0	0.8	-0.4	4.2			
季調済指数		94.1	98.3	98.1	98.6	98.5	99.8	96.9	98.8	99.6	101.9			
（前月(期)比）				(-0.7)	(0.5)	(-0.1)	(2.6)	(-2.9)	(2.0)	(0.8)	(2.3)			
鉄鋼	5.1 (4.4)	3.2	3.0	3.3	0.1	-0.4	0.5	-1.6	0.0	-1.9	-1.8			
電子部品・デバイス	7.9 (11.4)	29.4	2.3	-5.5	-7.3	-4.7	-7.8	-7.0	0.6	4.6	13.1			
一般機械	15.0 (12.7)	8.7	14.5	14.9	8.1	9.3	9.1	9.1	9.6	6.9	14.7			
電気機械	10.1 (5.7)	9.8	5.5	5.5	-2.7	2.3	-0.3	1.6	5.5	-9.1	7.3			
輸送機械	5.2 (12.3)	-1.3	7.1	6.7	7.7	1.7	-1.0	4.6	1.9	2.3	2.7			
化学	12.8 (11.7)	-1.0	3.7	5.0	1.4	-2.8	-4.0	-0.7	-3.6	-1.1	4.0			
全国計		3.5	4.1	1.8	1.4	0.3	0.3	0.3	0.2	-2.3	1.5			
季調済指数		96.6	100.6	99.8	101.5	101.1	102.5	99.6	101.2	100.0	101.1			
（前月(期)比）				(-0.9)	(1.8)	(-0.4)	(1.9)	(-2.8)	(1.6)	(-1.2)	(1.1)			
在庫														
関西		7.1	0.0	7.9	0.0	2.1	1.9	1.7	2.1	4.4	5.0			
全国		-1.3	2.7	-0.3	2.7	2.4	1.1	2.8	2.4	5.1	4.2			

（注）関西は福井を含む2府5県。

（出所）経済産業省、近畿経済産業局

予測（全国）		
05/7-9	9	10
-0.5	3.9	4.6
100.6	104.1	103.7
-0.5	3.0	-0.4

(2)設備投資

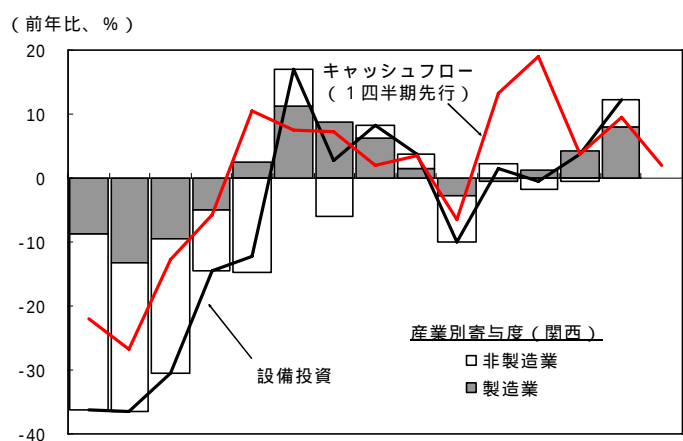
関西の設備投資は、指標にばらつきが見られるものの、底堅い推移を続けている。

関西の大企業の設備投資は、05年4 - 6月期が前年比+12.4%と、2四半期連続でプラスとなった。3四半期連続プラスで推移する製造業に加え、非製造業も3四半期ぶりにプラスに転じた。設備投資に先行するキャッシュフローも前年比プラスの推移を続けている。(図表4)。

設備投資の先行指標である建築着工床面積(非居住用)を3ヶ月移動平均でみると、関西は足元8月が3ヶ月ぶりに前年比マイナスとなったが、製造業用は前年比プラスで推移している(図表5)。

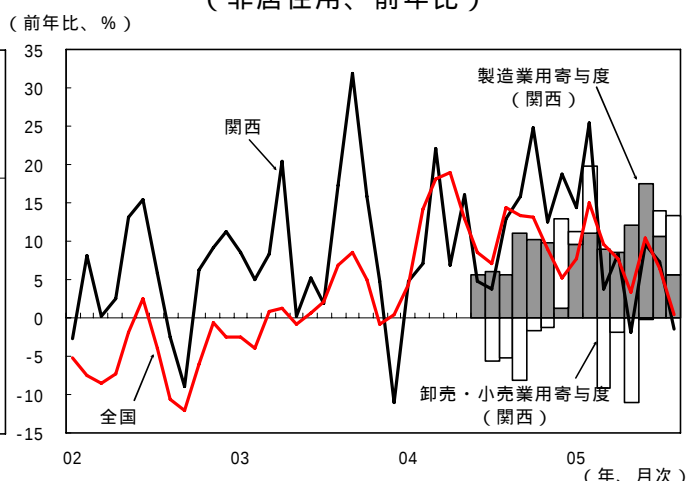
日銀短観(05年9月調査)の設備投資計画によると、関西の設備投資額(含むソフトウェア・除く土地投資額)は、05年度計画が+11.8%と、前年を大きく上回る伸びとなった。前回調査時からさらに上方修正(+2.4%)しており、計画、修正率とも全国を上回っている(図表6)。

図表4．大企業の設備投資(前年比)



(注) 資本金10億円以上。除くソフトウェア。(年、四半期)
 $CF = \text{経常利益} \times (1 - \text{法人実効税率}) + \text{減価償却費}$
 CFは設備投資に1四半期先行
 (出所) 財務省、近畿財務局「法人企業統計季報」

図表5．建築着工床面積
(非居住用、前年比)



(注) 後方3ヶ月移動平均値の前年比
 (出所) 国土交通省「建築着工統計」

図表6．日銀短観 設備投資計画(前年度比)

	関西				全国			
	2003年度	2004年度	2005年度		2003年度	2004年度	2005年度	
			(計画)	修正率			(計画)	修正率
製造業	14.7	4.3	16.2	2.2	6.3	16.4	13.8	0.9
大企業	14.8	4.3	16.2	2.0	5.6	15.1	16.8	-0.2
中堅企業	22.1	-5.0	31.8	2.4	7.6	11.5	14.6	2.8
中小企業	-7.1	28.1	-13.0	15.1	8.8	29.9	-2.4	5.7
非製造業	-1.7	-1.7	8.0	2.6	0.2	0.5	7.6	0.7
大企業	-2.0	-2.1	9.0	3.0	-1.3	-1.6	7.5	-0.3
中堅企業	3.9	4.4	-0.3	-4.6	1.6	2.9	7.5	0.6
中小企業	-1.8	-2.3	-4.6	5.7	5.6	7.0	8.2	5.2
全産業	4.9	1.0	11.8	2.4	1.9	5.1	9.6	0.8

(注) ソフトウェアを含む。除く土地投資額
 (出所) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」(05年9月)

(3)企業の業況感

日銀短観（05年9月調査）では、関西の全産業ベースの業況判断DI（「良い」 - 「悪い」）は、足元05年9月期が+7と6四半期連続でプラスとなり、全国を上回って推移している。業種別にみると、製造業は横這い、非製造業は改善している（図表7）。

UFJ短観（05年8月調査）では、関西の全企業ベースの業況判断DI（「上昇」 - 「下降」）は、足元7 - 9月期で▲14と2四半期ぶりに悪化した。業種別にみると、製造業が2四半期ぶりに悪化したのに対し、非製造業では2四半期連続の改善となった（図表8）。

日銀短観は業況の水準を尋ね、UFJ短観は変化の方向性を尋ねるため、異なる動きをしているが、比較的高い水準での横這いが続くなかで、方向性でも踊り場からの脱却の兆しが出てきたことが確認できる（図表9）。

図表7．業況判断DI（日銀短観）

		（「良い」 - 「悪い」）		（予）	
		05/3	05/6	05/9	05/12
全産業	関西	5	6	7	6
	全国	-2	1	2	2
製造業	関西	10	12	12	11
	全国	6	8	8	9
非製造業	関西	0	1	2	2
	全国	-6	-3	-3	-2

（注）数字は%pt

（出所）日本銀行「全国企業短期経済観測調査」（05年9月）

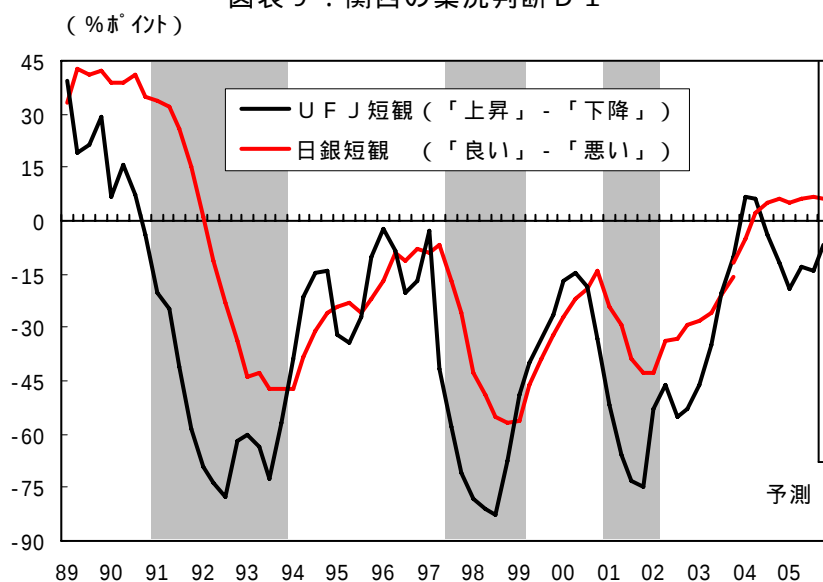
図表8．業況判断DI（UFJ短観）

		（「上昇」 - 「下降」）		（予）	
		05/1-3	05/4-6	05/7-9	05/10-12
全産業	関西	-19	-13	-14	-7
	全国	-15	-10	-11	-6
製造業	関西	-13	-6	-10	-1
	全国	-7	-6	-8	-1
非製造業	関西	-22	-17	-16	-10
	全国	-19	-12	-13	-8

（注）数字は%pt。05/7-9は見込み値

（出所）第67回UFJ短観調査結果（05年8月）

図表9．関西の業況判断DI



（注）シャドー部分は内閣府による景気後退期。 （年、四半期）

UFJ短観、日銀短観ともに全産業ベース。

日銀短観は、04年3月期より調査対象企業の見直しを行ったことから、03年12月期以前と04年3月期以降の計数は連続しない。

（03年12月期については新ベースによる再集計結果を併記）

（出所）第67回UFJ短観調査結果（05年8月）

日本銀行「全国企業短期経済観測調査」（05年9月）

2. 個人消費

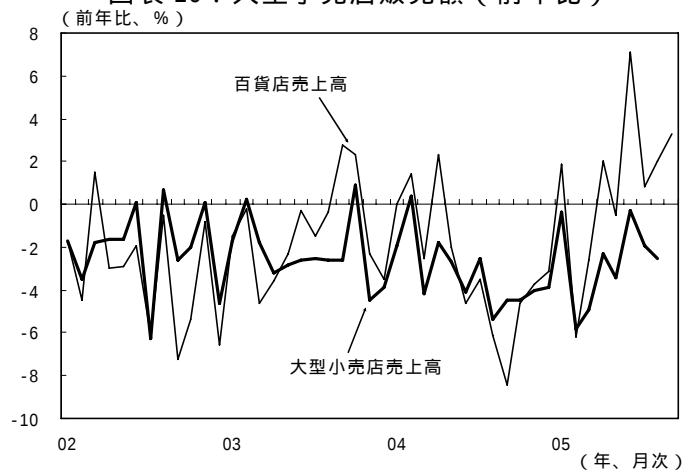
関西の大型小売店販売額は、05年8月が前年比 - 2.5%と18ヶ月連続で前年を下回っており、個人消費の基調は強くない。ただし、大阪地区の百貨店売上高は、改装前の大型セールやクールビズ効果、そごうの開店効果など、イベント的な要因もあり4ヶ月連続で前年比プラスとなっている。雇用の改善やボーナスの増加など、一時的に消費が盛り上がるベースはある（図表10）。

大阪府の新車登録台数は、05年7 - 9月期が前年比 + 0.4%と、2四半期連続でプラスとなった。全国同様、普通乗用車（同 - 9.0%）が全体を押し下げたものの、軽乗用車（前年比 + 5.6%）、小型乗用車（同 + 4.5%）が好調だった（図表11）。

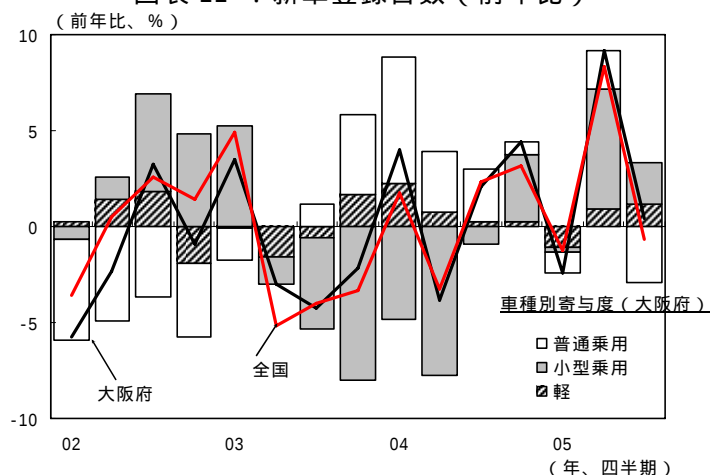
関西の家電販売額は、05年7月が前年比 + 13.2%。テレビ（薄型含む）を中心としたデジタル家電が引き続き全体を牽引し、パソコンも前年比プラスとなった（図表12）。

関西の名目可処分所得は、05年8月が前年比 + 2.6%と2ヶ月連続でプラスとなっているが、総じて見れば全国同様、ほぼ前年並みの推移となっている（図表13）。

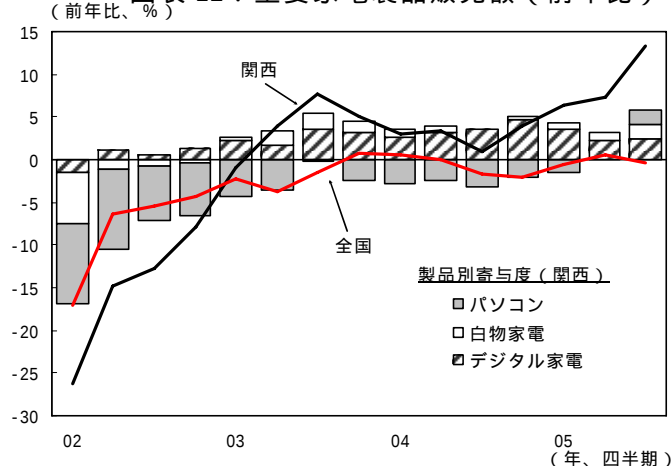
図表10. 大型小売店販売額（前年比）



図表11. 新車登録台数（前年比）



図表12. 主要家電製品販売額（前年比）



図表13. 名目可処分所得（前年比）



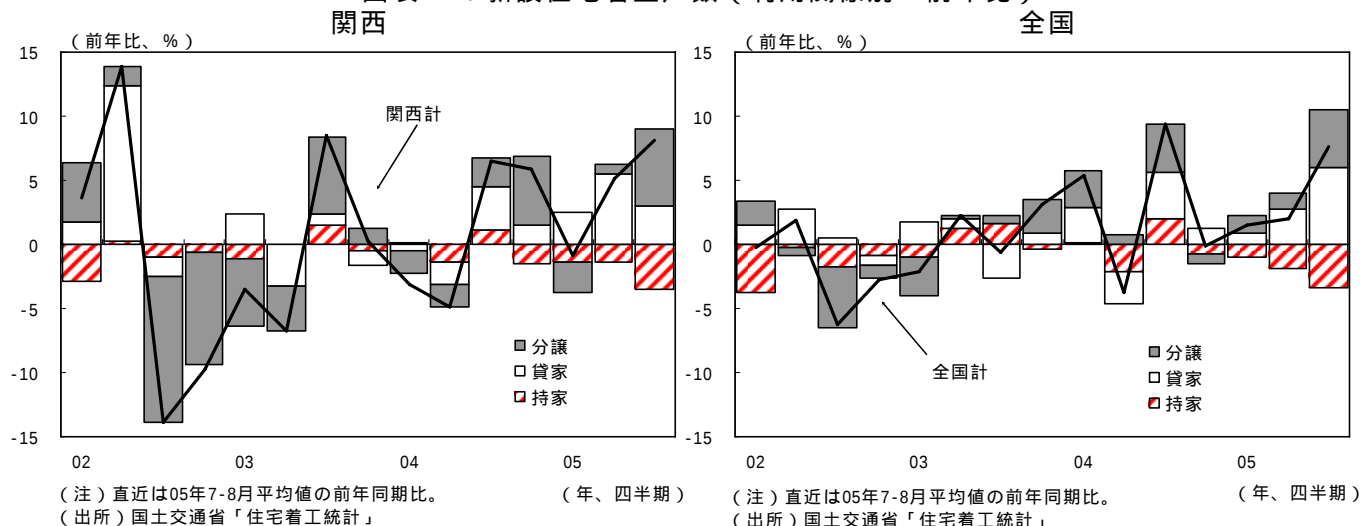
3. 住宅投資

関西の住宅着工戸数は、足元 05 年 7 - 8 月期が前年同期比 + 8.1% と、2 四半期連続プラスとなった。利用関係別にみると、持家が 4 四半期連続でマイナスとなったが、分譲が 2 四半期連続、貸家が 5 四半期連続でプラスとなっている（図表 14）。

関西のマンション販売動向をみると、足元 05 年 9 月のマンション契約率は 75.6% と、8 ヶ月連続で好不調の判断基準である 70% を上回った。供給戸数についても、足元 7 - 9 月期は 3 四半期ぶりに前年を上回っている。マンションの販売在庫は減少ペースが鈍化しつつあるものの、依然として低い水準で推移している。都心部での好立地物件を中心に需要は底堅く、今後も堅調に推移する見込みである（図表 15、16）。

関西の住宅投資は、マンションを中心に底堅い動きが続いているものの、人口の転出超過は続いていることから、今後は横ばいないし弱含みで推移する見込みである。

図表 14. 新設住宅着工戸数（利用関係別・前年比）

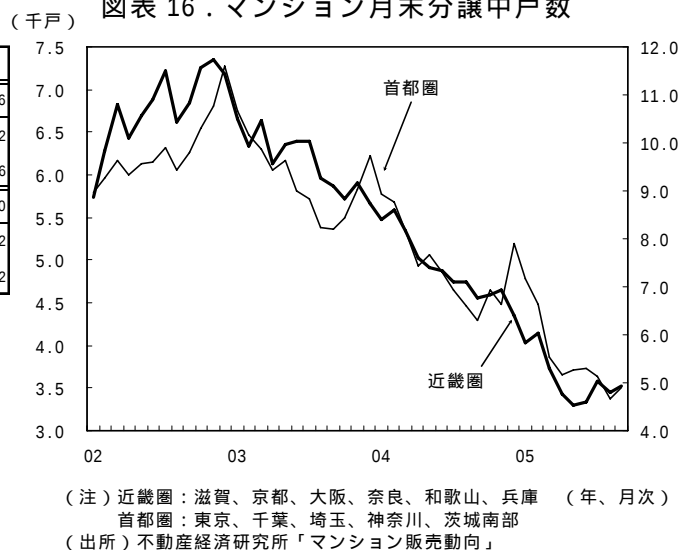


図表 15. マンション契約率と供給戸数

		03年度	04年度	04/10-12	05/1-3	05/4-6	05/7-9	05/7	8	9
近畿圏	契約率 (%)	73.0	76.2	77.6	73.8	78.1	76.5	79.5	71.7	75.6
	供給戸数 (戸)	31,647	30,967	9,210	6,975	7,103	8,006	3,570	1,724	2,712
	(前年同期比、%)	-8.0	-2.1	0.2	-11.3	-10.7	17.3	34.1	15.5	1.6
首都圏	契約率 (%)	78.6	78.7	77.6	78.7	83.3	84.2	83.3	89.1	81.0
	供給戸数 (戸)	83,291	82,561	27,088	17,365	21,033	19,042	6,912	5,498	6,632
	(前年同期比、%)	-2.0	-0.9	9.0	-14.2	3.6	6.9	-4.4	12.7	16.2

(注) 契約率 = 当月中に発売された物件の契約状況。70% 以上で好調とされる
(出所) 不動産経済研究所「マンション販売動向」

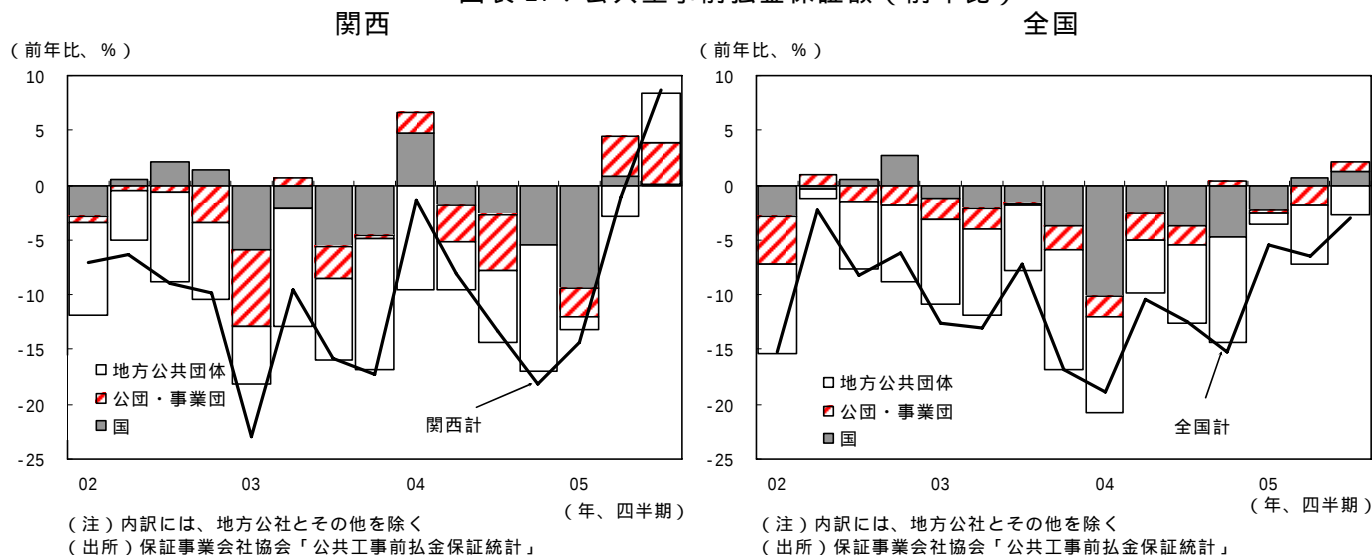
図表 16. マンション月末分譲中戸数



4. 公共投資

公共投資の先行指標である公共工事前払金保証額は、関西では、足元 05 年 7 - 9 月期が前年比 +8.7%と 00 年 7 - 9 月期以来 20 期ぶりにプラスに転じた。大型工事(関西国際空港 2 期関連) など一時的な要因による影響が大きい、全国でもマイナス幅は縮小傾向にある (図表 17)。

図表 17. 公共工事前払金保証額 (前年比)

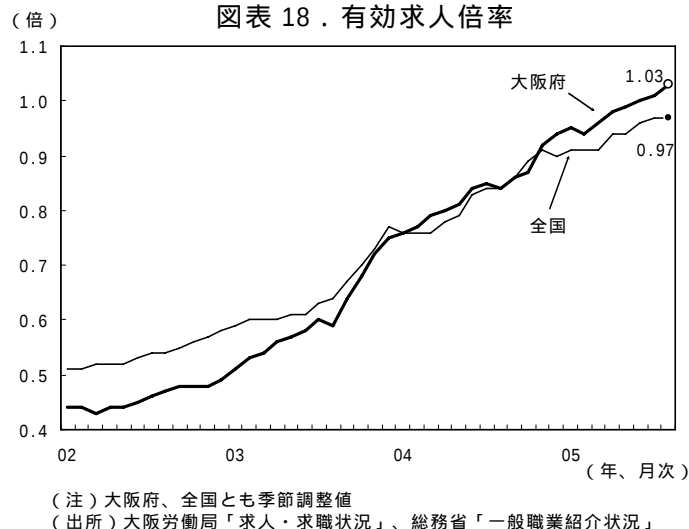


5. 雇用

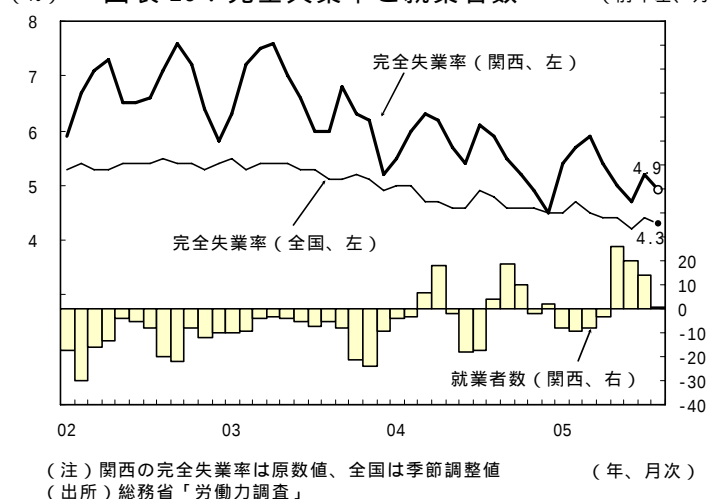
大阪府の有効求人倍率は、05 年 8 月が 1.03 倍と 6 ヶ月連続で改善し、全国 (0.97 倍) を 10 ヶ月連続で上回った。新規求人の状況を主要産業別にみると、「運輸業」「教育、学習支援業」を除くすべての業種で前年同月を上回っている (図表 18)。

関西の完全失業率は、8 月が 4.9%と 2 ヶ月ぶりに 4 % 台となり、前年差でも 1.0%pt 改善した。就業者数も +1 万人となっており、緩やかながらも雇用環境の改善は続いている (図表 19)。

図表 18. 有効求人倍率



図表 19. 完全失業率と就業者数 (前年差、万人)

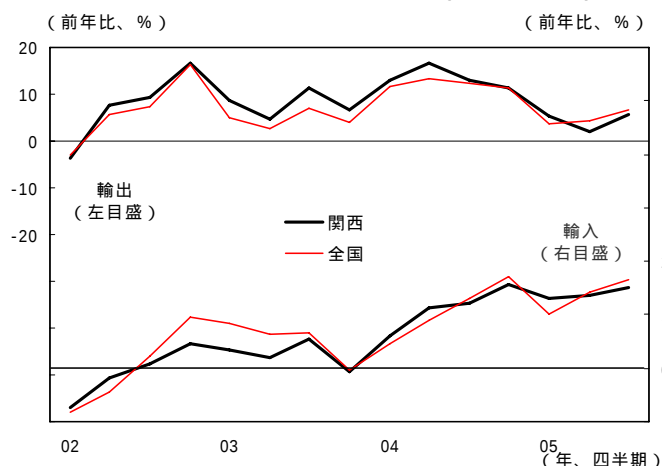


6. 輸出入

関西の通関輸出額（円ベース）は、05年7-8月期が前年比+5.7%と14四半期連続で前年を上回っている。品目別にみると、好調が続く鉄鋼や建設用機械に加え、05年上期に下押し要因となっていた半導体等電子部品が前年比+7.2%とプラスに転じた。地域別では伸び率が鈍化していたアジア向け、特に中国向けが足元8月、大きく伸びた。

関西の通関輸入額（円ベース）は、05年7-8月期が前年比+15.1%と、7四半期連続でプラスとなった。品目別では、高騰の続く原油の輸入が大幅に増加している。地域別にみると、中国をはじめとするアジア地域や、UAE（石油）といった資源国からの輸入は前年比2桁の伸び率が続いている（図表20、21、22）。

図表20. 輸出入金額の推移（円ベース）



（注）直近は関西・全国とも05年7-8月平均値の前年同期比。
04年以前は確定値。05年は速報値。
ただし関西・全国とも05年8月の輸入は速報値
（出所）大阪税関「近畿圏貿易概況」、財務省「外国貿易概況」

図表21. 主要品目の動向（05年7-8月）

輸出			輸入		
品目	構成比	前年比	品目	構成比	前年比
半導体等電子部品	10.4	7.2	衣類及び同付属品	9.9	3.6
鉄鋼	5.3	22.0	原油及び粗油	8.7	58.8
科学光学機器	4.2	3.1	天然ガス及び製造ガス	4.8	32.1
織物用糸及び繊維製品	4.0	-7.6	液化天然ガス	4.3	32.9
電気回路等の機器	3.6	3.1	事務用機器	3.7	2.2
プラスチック	3.3	7.1	肉類及び同調製品	3.7	13.4

（注）前年比・構成比ともに05年7-8月の累計値ベース。

8月輸入は速報値

（出所）大阪税関「近畿圏貿易概況」

図表22. 輸出入金額の推移（円ベース、前年比、%）

		(前年比、%)										
		03年度	04年度	04/7-9	10-12	05/1-3	4-6	05/4	5	6	7	8
輸出	関西	8.8	11.5	13.1	11.5	5.3	1.9	3.6	1.8	0.5	2.9	8.7
	アジア	14.0	13.3	16.0	10.0	7.5	1.7	2.0	0.8	2.2	0.9	10.6
	(うち中国)	(27.7)	(12.9)	(18.7)	(14.2)	(2.7)	(1.8)	(0.1)	(2.7)	(2.4)	(4.6)	(18.6)
	アメリカ	-4.7	8.4	6.4	12.4	3.9	4.8	9.0	5.9	-0.2	10.3	6.5
	EU	8.6	11.1	8.0	12.7	-4.2	-7.4	-7.6	-9.3	-16.8	-12.6	-11.5
	全国	6.3	10.1	12.3	11.2	3.8	4.3	7.8	1.4	3.6	4.3	9.1
輸入	関西	3.1	13.0	12.2	15.6	12.9	13.7	13.0	19.2	9.2	10.1	20.3
	アジア	6.6	14.1	15.1	15.8	15.2	14.1	12.2	17.8	12.5	8.9	17.4
	(うち中国)	(10.3)	(17.0)	(16.1)	(20.0)	(18.6)	(19.1)	(16.8)	(20.8)	(19.9)	(12.9)	(22.8)
	アメリカ	-3.6	-1.5	-3.2	-4.6	4.3	10.9	7.3	15.6	10.2	9.0	11.6
	EU	3.2	5.2	-1.4	5.1	-2.4	-4.4	-1.4	5.3	-15.0	-2.9	13.8
	その他	-3.2	24.6	23.8	35.9	23.5	27.5	29.2	35.2	18.5	23.5	36.9
全国	7.3	12.3	13.1	17.0	10.0	14.1	12.8	18.7	11.1	11.7	21.2	
	アジア	11.7	14.1	14.3	15.0	12.9	12.9	11.9	15.9	11.1	7.4	19.3
	(うち中国)	(11.7)	(17.0)	(17.1)	(19.9)	(18.9)	(17.8)	(17.8)	(19.0)	(16.6)	(12.4)	(23.0)

（注）04年以前は確定値。05年は速報値。ただし05年8月の輸入は関西・全国とも速報値。

EUは04年5月より15カ国ベースから25カ国ベースへ。

（出所）大阪税関「近畿圏貿易概況」、財務省「外国貿易概況」